



第562号

2020年1月6日

発行・自治労連千葉県本部  
千葉市中央区長洲1-10-8 自治体福祉センター内  
TEL 043-227-9393 FAX 043-227-6060  
URL http://www.jichirorenchiba.jp/  
責任者・竹内敏昭 編集長・實川理

川名委員長



# 安全な水を届けます

安房地域で安定的な水供給を担う三芳（みよし）水道企業団。企業団労組の川名委員長に上水道の仕事と昨年の災害時の様子をお聞きしました。

## 安房の水を守る 三芳水道企業団

三芳水道企業団は、館山市と南房総市で構成する一部事務組合で、館山市と南房総市の三芳地区・富浦地区に水道を供給しています。3つの浄水場（ダム2、井戸1）と利根川からの水を受水する2つの配水場を管理しています。給水戸数2万3423戸、給水人口5万3421人（平成30年度）です。

## 水道の仕事には経験が必要

川名委員長は、企業団に入職して14年。「経験」の重要性について語ります。「例えば、漏水に適切に対応するには、漏水箇所と深刻度を見極めるための知識と経験が不可欠です。それには現場で実際に聞いて自分で試行錯誤することが必要です」

採用を求めています。

## 都市と農村を単純にコスト比較しない

企業団の運営は赤字ですが、管内の水道管の更新は追いついておらず先延ばしにしているのが現状です。「そもそも地方の水道を都市部の水道と単純にコスト比較するのは乱暴です。人口が減少し続けている今、水道料金と補助金で採算をとれ、というのには無理があります」と語ります。

## 非常時に活きた 日常の施設維持管理

9月の台風15号による停電では、給水区域内で約200戸が断水しました。それでも供給戸数からすると断水を0・6%程に抑えられたのは、各浄水場・配水場で自家発電装置に切り替えてポンプを動かすことができたからです。停電中でも管内の5系統全てで水の供給を維持できました。場所によっては発電機の燃料タンクが小さく1日もたないもので、交代で燃料補給にまわったそうです。

## 職員自ら 水道管補修

がけ崩れなどの対応で地元の建設業者が手いっぱいの際には、職員が自らドリルで路面に穴を開け、固くしまった砕石を掘って直接工事を行うこともあり、直営の即応力を発揮してきました。

## 災害対応での自治体職場の現状と今後の課題に関する交流会

### 予想外の台風・豪雨被害 【検証】その時自治体では

12月14日県本部は、災害対応を検証する交流会を開き10単組24人が参加し、県内各地の経験を交流しました。

#### 避難所に家族を置いて出勤

まず「台風15号等の災害対応を振り返る」として市原市の野本さん、鋸南町の青木さん、君津市の鈴木さん、県職員の片山さんの4人が県内各地の状況を報告しました。



鈴木さん

君津市職員の鈴木さんは、職員組合が取り組んだ「未来のためのアンケート」について報告しました。自由討論では、災害対応における安全配慮の欠如、日常の職員間コミュニケーション不足、そもそもの職場の人員不足など多くの課題が出されました。県本部は今後、「災害に関する職員アンケート」にとりくみます。結果は、2月2日の「安心して暮らせる地域づくりシンポジウム」に予定されているの県本部「自治研セミナー」などでの災害対応の改善の議論に活かしていくことになっています。

【設問】「災害対応でつらかったこと」として、「職場がギリギリな上に災害対応があり疲労した」「避難所に家族を置いて出勤した」「夫婦で災害対応で、休園・休校で子どもの預け先を確保することが難しかった」「本庁からの情報が現場になく困った」などの声が出されました。一方、【設問】「あなたが工夫したこと」については、「電波の入る場所に行って情報を収集した」「情報を

原則を導入すれば、やがて水道料を上げるか安全を犠牲にする結果を招くことになりま。長期的見通しに立って事業を効率化していくことは大事ですが、住民の生活のために必要な財源は、国に保障してほしいです」

## 水は生存権の保証 財源措置が必要

川名さんは、「水は生存権です。どこに住んでいても、安全な水が安く提供されるべきだと思います」

「地方は限られた財源の中で厳しい選択を迫られています。競争

## 組合で広い世界を感じてほしい

以前、県本部青年部長を経験した川名委員長。「毎日の業務に追われていると職場の小さな世界に閉じてしまいがちですが、組合活動では全国のいろいろな職場に友達ができます。若い職員には、どんどん外に出て広い世界を感じてほしいです」と若手にエールを送ります。



竹内委員長

## 謹賀新年

県本部委員長 竹内敏昭

昨年、台風15号をはじめ大災害が連続して発生し、千葉県にも甚大な被害をもたらしました。引き続き災害対応に力を尽くすとともに一日も早い復旧・復興、生業の再建を心から願うものです。20春闘では「大企業の内部留保を社会的に還元し、すべての労働者の賃金底上げで景気回復、働くルールの確立を」、「安倍改憲阻止」、「安倍改憲阻



自家発電機

止、平和と民主主義を守れ」、「自治体の産業化を許さず、公務員共の拡充」、「社会保障改悪許さない、公立・公的病院の再編統合反対、原発再稼働やめよ、被災者本位の復興でいのちと暮らしを守れ」などの世論をさらに広げ、国民的な共同を大いに発展させましょう。本年もよろしくお願いたします。